
親父。

zojis

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
親父。

【Nコード】
N0341M

【作者名】
Zojis

【あらすじ】
夢を追うバカ息子の背中に、頑固親父はたった一言、言葉をかけた。

「絶対に許さん！」

最初、親父はこう言っていたそう。

少しずつ堀を埋めて攻略していくつもりだったが、お袋の口は耳から聞いた事をそのまま吐き出す構造のようだ。

まだ聞かれなくなかったのに……。

音楽で食っていく。少しギターが弾けるというだけで夢と現実の区別がつかなくなっている息子を、親として諫めるのは当然だろう。だが17歳の夢追い人にとって、親の気持ちほど届きにくいものがあるだろうか。

高校を卒業すると同時に、東京に出ると決めていた。

「明日親父に直接話すよ。ダメだって言われたら仕方が無い。勝手に出る。親に助けてもらおうなんて思っていない。」

親父に伝わる事を承知で、お袋に宣言した。本気でそう思っていた。一旦出てしまえばそこは首都、大東京。仕事なんて幾らでもあるだろう。

それに力ネなんぞ無くてもいい。音楽をやるにはギターが一本と、この体があればいい。

親父は頑固だから、どうせ俺の言葉なんか聞こうともしないだろう。ならばこちらでも好きにするまでだ。

現実にやつつけられて夢を失くした大人に、何を言われようが知った事じゃない。

次の日、仕事から帰って晩酌をしている親父の隣にわざと音を立てて胡座をかいた。

親父は何も言わずテレビを見ている。しばらく沈黙が続いた。

「親父、話がある。」切り出しても親父はテレビの方を向いたまま無言だった。

「どうしても音楽を目指したい。そりゃ可能性は低いかもしれないけど、宝くじだつて買わなきゃ当たらないだろ。」

『確かにな。』初めて親父が口を開く。珍しく耳はこちらを向いているようだ。

「卒業したら東京に行く。もう決めたんだ。」

ビールをゆつくりと飲み干してグラスをちゃぶ台に置くと、親父は顔をこちらに向けた。

真っ赤になっている。大分飲んでいるのだろう。

荒れるか。。。心の中でひとりごち、さらに先を続けようとした瞬間。

親父が言った。

「行つてこい。体には気をつける。」

あれから10年、俺は今PCのエンジニアをやっている。

見事に夢破れたわけだが、後悔はしていない。

今でも東京に出てきて良かったと心から思っている。

親父はもういない。一昨年白血病で亡くなった。

そして丁度入れ替わるように、俺のノートPCのキーボードを意味も無く叩きたがる小さな手がここにある。

まだ1歳にもなっていないが、あと十何年かすればどうせ下らない夢を語るようになるんだろう。

そしたら言つてやろうと思つている。

「絶対に許さん！」と。

俺の息子だ。その言葉を聞いてどういう行動に出るか、大体分かつてる。

そしてどこにだって、行ってくるがいいさ。
お前の人生なんだから。

なあ、親父。

（後書き）

自分の体験を元に大分装飾した超短編です。
お楽しみ頂けますように

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0341m/>

親父。

2011年1月12日21時08分発行